

## 配管洗浄機 P C L -40 (一部抜粋)

### 取扱説明書

このたびは、配管洗浄機 P C L -40 をお買い上げいただきましてありがとうございます。  
ご使用になる前に、この取扱説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。



この取扱説明書は大切に保管してください。

## 使用方法

本機の使用に際して、厳冬期の凍結に注意してください。本機の構造上、**水温及び気温が5℃付近まで下がると排気部分が凍結し、正常な動作ができなくなります。**厳冬期に使用する場合は、開始時に30℃程度のぬるま湯を入れ、200W程度のヒーター（熱帯魚用等）で保温するなどの対策をお願い致します。

### 1. 水の補給

タンクに水を約40L入れます。タンク内部の部品取り付け板の上面が約40Lの位置です。

### 2. 薬品の投入

SH2000を1本全て（2L）投入します。洗浄する対象の汚れ具合で薬品の量を加減しますが、汚れが多い場合は3L～4Lという様にします。但し、**特に汚れの多い場合は水を入れ替えて2回以上洗浄する方がより効果があります。**

### 3. 機器の接続

送り、戻り、エアー、電源を正しく接続してください。但し、詰まった配管などは、送りと戻りを反対に接続する事で改善される場合もあります。

### 4. 水圧の調節

エアーレギュレーターにより水圧を調節します。通常は1kg/cm<sup>2</sup>～2kg/cm<sup>2</sup>の範囲で十分ですが、汚れがひどく、流れが極端に悪い場合に2kg/cm<sup>2</sup>～3kg/cm<sup>2</sup>に調節してください。**本機は水圧に比例してエアーを消費しますので、圧が低い程、省エネです。また、圧が低い程凍結しにくくなります。**

## 5. 各種設定

電源スイッチをONにして、運転時間、流量設定、洗浄モードを選択します。設定の目安は以下を参考にしてください。

### 運転時間

- 12h 標準的な洗浄時間
- 18h 特に汚れが多い場合

### 流量設定

- 少ない 流量が5 L/m i n以下の場合に選択します。主に、複雑な水路の金型、溶接機などの極端に細い水路の機器で選択します。
- 多い 流量が5 L/m i n以上の場合に選択します。主に、単純な水路の金型、成形機等の機器で選択します。

### 洗浄モード

- 連続 ただ循環し続けるモードです。特に配管詰まりを起こす危険性のあるもの、金型温調機などの様に連続的な水流でないと都合の悪いものに使用します。
- 脈動 脈動流と連続流を交互におこないます。配管詰まりの可能性がある場合や、汚れが特に多い場合に使用します。
- 強力 前半は脈動モードで運転し、後半はエア-混入流と連続流、休止を繰り返します。**このモードは、薬品で溶解しない汚れが剥離し易いので、極端に水路が狭くなっている機器の場合、配管が詰まる可能性があります。**

## 6. 洗浄開始及びエア-ブロースイッチ

運転スイッチをONにすると洗浄が開始されます。**運転中に、エア-ブロースイッチをONにすると**、洗浄終了時に自動的に配管内の薬品を排出する為のエア-ブローを行います。また、手動でエア-ブローを行う場合は、運転スイッチがOFFの時に、エア-ブロースイッチをONにすると、ONの間エア-ブローが働きます。但し、**被洗浄物の配管内の通路が極端に細くなっている場合は自動エア-ブローが効かない場合がありますので、その場合は手動で行ってください。**

## 7. 洗浄終了

洗浄が終了したら、運転スイッチをOFFにして、エアブロースイッチで配管内の薬品を排出してください。(自動エアブローを指定した場合でも配管内に残っていないか確認してください)

## 8. 洗浄後の処理

洗浄した配管に清水を流し、配管内の薬品を更に洗い流してください。この薬品はほとんど機器を傷めませんが、**長期間そのままに放置した場合、機器を傷める可能性がありますので、必ず実行してください。**

## 9. 洗浄廃液の処理

配管を外し、ドレーンから薬品を排水してください。薬品は中性ですので中和処理は不要です。水で3~5倍に希釈しながら下水などに排水してください。( **廃液処理の詳細は“ 洗浄処理後の排水について ”の項を参照してください。** )最後に圧力タンク内(内部の白い大きなカプセル状のもの2個)に残った薬品も、圧力タンク底部の軸を押し込んで排水してください。

## 10. タンクの清掃 (必ず行ってください)

本機タンク及び戻りフィルタを清掃してください。本機は、上部のエアーホース2本のカプラを外し、制御部の蝶番の軸を左右にスライドさせれば、制御部とタンク部が簡単に分離しますので、分離した状態でタンク部を清掃してください。**タンク部はどこに水がかかっても問題ありません。**

## 11. 配管内の清掃 (必ず行ってください)

タンクの清掃終了後、本機を組み、送りラインと戻りラインをホースでつなぎ、清水のみで運転してください。10分程度運転し、本機の配管内部の残留薬品を洗い流してください。**洗浄せずに放置した場合、本機の配管が閉塞する恐れがあります。**

## 仕様

電源	AC100V
エアー消費量	45 L/min (最高圧・最大流量時)
最大吐出圧	3.0 kg/cm <sup>2</sup> (レギュレータで調節)
最大流量	15L/min
タンク容量	40L (標準水量)
使用洗浄剤	S H2000
接続口径	PT3/8 (送り・戻り各1ヶ所)
洗浄モード 3パターン	連続 一定の水流のみ 脈動 脈動流と連続流を交互に繰り返す 強力 前半は脈動モード、後半はエアー混入流と連続流を交互に繰り返します。
その他機能	自動エアブロー 手動エアブロー
重量	約 22 kg
寸法	330W × 8140H × 380D

## 製造元

### (株)五十嵐製作所

新潟県加茂市小橋 1-2-19

T E L 0256-52-0427

F A X 0256-52-1972